

奄美大島の自然環境・地場産業・歴史文化を学ぶ

担当教員名 長谷川 直哉

1 コースの概要

日 程	2014年9月8日～11日
場 所	鹿児島県奄美群島（奄美大島）
参加人数	33人

2 コースの目的

奄美大島の自然環境・地場産業・歴史文化を学ぶことで、離島に生きる人々の価値観や地域社会のサステイナビリティを考えます。

3 事前学習

事前学習では、奄美群島の今をより深く理解するために、江戸時代における薩摩藩との関係や大島紬やサトウキビ栽培などの地場産業の発展プロセス、第二次世界大戦後のアメリカ占領時代から本土復帰に至る経緯、本土付記以降の社会・経済の動向を学びました。

4 行程

1日目

午後、奄美大島空港に集合後、原ハブ屋にて奄美大島の自然と生態系におけるハブの位置づけに関する講演を聴講し、島民の生活とハブの共生関係について学習しました。夜は、ばしゃ山村にて郷土料理である「鶏飯」を体験し、自己紹介等を通じて参加メンバー間の交流を深めました。

2日目

午前には鹿児島県立大島高校を訪問し、高校生約50名との交流会・ミニオープンキャンパスを実施しました。高校生との進路に関する対話を通じて、参加メンバー自身が大学生活で何を学びたいのか、将来の目標は何かなど、自分自身を見つめ直すきっかけを得ることができました。父兄や教員の皆さんとも意見交換を行いました。午後は地場産業である大島紬の生産現場を訪問し、作業工程を見学しました。世界三大織物に数えられる大島紬の生産工程、高度な技術の一端を学ぶとともに、生活様式の変化による大島紬のマーケティングの課題について議論しました。その後、奄美パークを訪問し、奄美大島の自然・歴史・文化について展示物や動画を通して学びました。夕刻は大浜海岸にて海

水浴とバーベキューを堪能し、年次を超えた交流を図ることができました。

3日目

奄美大島の南西に位置するマングローブパークにてカヌーを使ってマングローブの原生林を見学し、奄美大島特有の自然を感じることができました。午後は半潜水船「せと」に乗船し、奄美大島と加計呂麻島間の大島海峡でさんご礁を見学しました。200種ともいわれるサンゴの生息する海中景観は想像を超える素晴らしさでした。その後、高知山展望台から奄美大島や加計呂麻島を一望し、改めて奄美大島の豊かな自然の尊さを実感しました。夕刻は地場産業として重要な黒糖焼酎を生産する富田酒造を訪問し、社長の説明を通じて黒糖焼酎の歴史と文化に触れることができました。また、小規模ながらも伝統的な製造スタイルを維持することで付加価値を高めるビジネスモデルを展開する同社の戦略を学びました。

4日目

午前は名瀬市内の中心商店街の見学、初日に訪れたばしゃ山村にて地元の方との交流や郷土品に触れるなど、各自奄美大島での学びの振り返りを行いました。昼食後に現地解散となり、フライト時刻まで時間の許す限りマリンスポーツを堪能しました。

5 事後学習

事後学習では見学した施設や体感したことについて、メンバー全員が3分間スピーチを行いました。また、①離島に生きる高校生の生き方と自分の人生、②高い技術を持つ伝統産業のブランド化と成長戦略、③奄美大島の観光産業の課題と将来像、④生態系の維持と経済成長、⑤日本社会のサステイナビリティと離島の関係性、などをテーマに各自レポートを作成しました。



カヌーに乗ってマングローブ原生林の散策